

48期から103期まで交流を深める

第24回総会・懇親会

上田高等学校関西同窓会の第24回総会・懇親会は、平成26年9月6日(土)、JR新大阪駅そばの「大阪コナホテル」で開催され、会員・来賓の39名が参加しました。午前10時からの総会に引き続き講演会は、京都中小企業家同友会事務局長・荻原靖さん(74期)が「中小企業が社会を愛える」と題してお話されました。引き続き行なわれた懇親会は、48期から103期までの参加者が交流を深めました。

文化委員長に武舎一夫さん(73期)

総会は石沢誠司会長(60期)の挨拶に続き、活動報告・次年度活動計画案、会計報告・次年度予算案を承認。また、役員人事案では武舎一夫さん(73期)の文化委員長への就任が承認されました。武舎さんは、平成24年から文化委員に就任、文化交流会の企画を担当されてこられました。(役員・学年幹事については次ページの表をご参照ください)

引き続き行なわれた、荻原靖さんの講演は、中小企業家同友会の紹介をしながら日本の中小企業の現状と特徴またその未来の可能性についてお話しされ、好評で



講演会でお話する 荻原靖さん(74期)

した。講演の内容は4ページに掲載しています。

上田高等学校
関西同窓会報

第40号

2015年(平成27年)
1月17日(土曜日)

発行・編集
上田高等学校関西同窓会

第8回文化サロン

「井原西鶴と大阪文化」
3月7日(土) 大阪産業創造館

文化サロンも皆様方のご協力により8回目を迎えます。今回は大阪文学の源流といわれ、近世日本文学の先駆者の一人である井原西鶴に焦点をあてながら、今も息づいて受け継がれている大阪文化の特徴について、山下孝夫氏(鳥之内芸能文化協会主催、NPO なにわ創世塾理事講師)にお話をいただきます。大阪出身の山下氏は、西鶴研究のみならず、能・歌舞伎・文楽にも造詣が深く、また画家として個展などを開いており、当日はご自身の絵も持参してくださいませ。土曜の昼さがり、皆様お誘い合わせの上ご参加くださいますようご案内致します。

【日時】 2015年3月7日(土) 午後1時~4時

【場所】 大阪産業創造館 6F 会議室D
〒541-0053 大阪市中央区本町 1-4-5 TEL 06-6264-9888

【交通案内】 ▶地下鉄中央線「堺筋本町駅」下車 1号出口または2号出口から北へ。本町通の横断歩道を北に渡り、東(右)に進むと川(本町橋)の手前。
▶地下鉄堺筋線「堺筋本町駅」下車 12号出口から本町通をまっすぐ東へ。信号を2つ渡り川(本町橋)の手前。

【内容】

- ◆テーマ 「井原西鶴と大阪文化」
- ◆時間 午後1時~3時(途中休憩) 話題提供
午後3時~4時 自由討論と懇親
- ◆講師 山下孝夫氏
鳥之内芸能文化協会主催、NPO なにわ創世塾理事講師。昭和25年大阪生まれ。天王寺高校、京都大学経済学部卒業後、住友精密工業入社。55才で早期退職後、文化活動に専念。京都経済短大臨時講師。

【会費】 1,000円
(会場費とコーヒー代を含む。当日頂きます)

【会場の定員】 25名(申込み順)

【申込み先】
〒630-8105 奈良市佐保台 2-902-566 阿部百合子
TEL/FAX 0742-72-3252 e-mail yabe@eco.ocn.ne.jp
2月28日(土)までに上記宛に郵送、FAX、メールの何れかでお申し込み下さい。



【会場案内図】

石沢会長あいさつ
「真田丸」で活性化を

昨年の総会で3期目を担当させていただくことになり一年過ぎました。大阪市のゴミ処理施設などを見学した文化交流会、卑弥呼の時代を思いを馳せた文化サロンと、順調に行事をおこない本日の総会となりました。昨年度、もうひとつの出来事は会報を電子化し、1月発行号を希望者にメール配信したことで、紙の会報の希望者です。今から2年間、この調和を図りながら真田丸が続き、この流れを推進してゆきたいと考えております。また、関西同窓会の活動に活力を与えてくれるのが、NHK大河ドラマの「真田丸」です。今後とも皆さまのご協力をお願い致します。

平成25年活動経過報告

平成25年

▶9月7日(土)第23回関西同窓会総会・懇親会を開催。会員39名・来賓5名。(大阪コロナホテル)講演会「石田梅岩の教えとは何か」講師:イズミヤ総研顧問 清水 正博さん(67期)
 ▶9月12日(木)1年生対象社会講座への協力。理学 松原 隆彦さん(83期)
 ▶9月28日(土)文化交流会。参加者16名。『奇抜な建物で有名な大阪市環境局舞洲工場とフランスの至宝「貴夫人と一角獣展」』見学
 ▶10月12日(土)上田高校同窓会会員大会に石沢会長が出席。出席者380名
 ▶10月12日(土)関西同窓会女子部会を奈良で開催。出席者13名
 ▶11月16日(土)中农信支部第20回総会に金澤副幹事長が出席。出席者59名

平成26年

▶1月17日(金)関西同窓会報第38号発行。会報を電子化しメールのある会員にPDFファイルを送信して会報保管場所のアドレスを連絡した。メールのない会員および紙の会報を希望する会員にはコピーした会報を送付した。本部および他支部には、会報保管場所のアドレスを連絡。
 ▶2月1日(土)第1回役員会(句粋)。出席者7名。
 ▶3月9日(日)第7回文化サロンを実施 参加者:25名。会場:ホテルアウィーナ大阪 13:00~16:30 テーマ:「纏向(まきむく)遺跡の箸墓(はしはか)古墳は卑弥呼の墓か?」講師:桜井市教育委員会文化財課調査研究係 森 暢郎先生
 ▶6月14日(土)第2回役員会(大阪コロナホテル)。出席者8名。
 ▶6月30日(土)関東同窓会第53回総会に金澤副幹事長が出席。出席者223名。
 ▶7月17日(水)関西同窓会報第39号発行。発行部数は500部、関西同窓会会員460部、事務局用40部。本部・関東同窓会・各支部へはPDFファイルを送付

平成26年活動計画

▶平成26年9月6日(土)に第24回総会・懇親会を開催。会場:大阪コロナホテル
 総会:2階215号室 懇親会:200D号室
 講演「中小企業が社会を変える」講師 京都中小企業家同友会 事務局長 荻原 靖さん(74期)
 ▶広報委員会編集による関西同窓会報を年2回(1月17日、7月17日)発行する。1月号については電子化しメールのある会員にPDFファイルを送信する。メールのない会員および紙の会報を希望する会員にはコピーした会報を送付する。(小松広報委員、石沢会長)
 ▶文化委員会主催による文化事業を年2回開催し、会員相互の交流を促進する。
 ①秋の文化交流会 11月15日(土)9:30 京阪宇治駅集合(武舎文化委員長企画)「平安の色彩がよみがえった平等院の見学と宇治川畔の散策」を実施。参加者8名。
 ②第8回文化サロン 平成27年3月7日(土)13:00~16:00(阿部副会長企画)
 ▶上田高校同窓会本部会員大会をはじめ、関東同窓会総会、中农信支部総会などに代表が出席し、交流を深める。
 ▶10月4日(土)本部会員大会に石沢会長が出席。参加者320名。
 ▶11月15日(土)中农信支部総会に尾崎副会計長が出席。参加者60名。
 ▶母校社会講座への協力 講師の派遣 日時:平成26年9月18日(木)1年生対象講座<国際学>竹内俊隆さん(68期)<理学>松原隆彦さん(83期)
 ▶女子部会を開催予定(阿部副会長企画)
 ▶FaceBookなどのIT技術により会員交流の場づくりの拡充を行う。(土屋広報委員他)
 ▶上田高等学校の生徒が文化・スポーツなどの分野において、近畿地区で活躍する場合は応援する。

上田高等学校関西同窓会 役員・幹事

会 長	石沢 誠司	60期		
副 会 長	阿部百合子	62期	竹内 俊隆	68期
幹 事 長	隅田修一郎	64期		
副 幹 事 長	金澤 信男	67期		
会 計 長	荻原 靖	74期		
副 会 計 長	尾崎 忍	76期		
監 事	岩田 司	60期		
顧 問	佐原 謙一	62期		
企画委員会	委員長(兼)隅田修一郎	(兼)金澤信男 67期	上記役員全員	
広報委員会	小松 秀雄	67期	土屋 俊夫	83期
文化委員会	委員長 武舎 一夫	73期	矢島 裕章	106期
学 年 幹 事	保屋野文男	43期	小泉 孝雄	49期
	翠川 健彦	51期	中村 啓輔	52期
	清水 克正	54期	若林 忠之	55期
	中嶋 巖	57期	白井 彰彦	58期
	山本 努	60期	森田 尚文	61期
	丸山 文夫	64期	恩田 隆	65期
	知野 武文	68期	伊藤 秀一	70期
	武舎 一夫	73期	荻原 靖	74期
	戸田 有一	79期	唐沢 佳彦	81期
	近江 裕之	85期	高橋 路子	88期
	高寺 祐佳	105期	矢島 裕章	106期
			半田 仁志	50期
			荒井 正自	53期
			大野 せき子	56期
			伊倉 邦人	59期
			黒岩 屹	62期
			金澤 信男	67期
			中村 智子	72期
			尾崎 忍	76期
			土屋 俊夫	83期
			和田 葉子	104期

平成25年度 会計報告(単位:円)

収支計算書 (平成25年8月30日~平成26年8月29日)			
収入の部		支出の部	
前期繰越	225,787	総会費用	247,527
総会費収入	285,000	会報費	292,656
年会費	185,000	通信費	0
特別年会費	30,000	渉外費	100,620
雑収入	161,009	事務費	7,858
利息収入	32	雑費	19,154
会報電子化対策費本部負担金	100,000		
次期総会参加費前納金	70,000		
		次期繰越	389,013
合 計	1,056,828	合 計	1,056,828

財産目録 (平成26年8月29日現在)

普通預金	345,789
郵便振替	43,224
合計残高	389,013

平成26年度予算 期間(平成26年8月30日~平成27年8月29日)(単位:円)

収 入			
科 目	26年度予算	25年度実績	前年比増減
前期繰越金	389,013	225,787	163,226
総会費収入	280,000	285,000	-5,000
年会費	270,000	185,000	85,000
特別年会費	30,000	30,000	0
雑収入	160,000	161,009	-1,009
利息収入	20	32	-12
会報電子化対策費本部負担	100,000	100,000	0
次期総会参加費前納金		70,000	-70,000
合 計	1,229,033	1,056,828	172,205

会費納入にご協力をお願いします

会費未納の方が納入される場合は、過去に遡る必要はありません。納入時点の会計年度からで結構です。例会にも気軽にご参加ください。

【会費納入方法の概要】

- ① 年会費 = 1人2千円
 - ② 特別会費 = 1口5千円以上。ご支援いただける方はよろしくお願い致します。
 - ③ 振込方法1 = コピー会報送付の方は、同封の郵便振込用紙をご利用ください。
 - ④ 振込方法2 = 会報メール送信の方は、振込票を同封する7月発行号の時で結構です。今回お支払いいただく場合は、お近くの郵便局の郵便振込用紙をご使用ください。
- 口座番号は、00970=2=13971
 加入者名「上田高等学校関西同窓会」です。
 (振込料金が掛かりますのでご了承下さい)

支 出			
科 目	26年度予算	25年度実績	前年比増減
総会費用	320,000	247,527	72,473
会報費	300,000	292,656	7,344
通信費	2,000	0	2,000
渉外費	110,000	100,620	9,380
事務費	10,000	7,858	2,142
雑費	20,000	19,154	846
予備費	50,000	--	50,000
次期繰越金	417,033	389,013	28,020
合 計	1,229,033	1,056,828	172,205

懇親会式次第

- ◆開宴の辞
 - ・司会 金澤信男さん(67期)
 - 土屋俊夫さん(83期)
- ◆来賓挨拶
 - ・上田高等学校長 若林昌二さん(71期)
 - ・同窓会本部副理事長 金子元昭さん(68期)
- ◆乾杯
 - ・大谷永保さん(50期)
- ◆関東同窓会並びに各支部来賓挨拶
 - ・関東同窓会会長 高梨奉男さん(62期)
 - ・関東同窓会幹事長 倉沢裕さん(69期)
 - ・中南信支部副支部長 武村洋治さん(58期)
- ◆母校近況
 - ・上田高校教諭 小宮山勝人さん(82期)
- ◆会員スピーチ
- ◆校歌斉唱 音頭: 武村洋治さん
- ◆閉会の辞・万歳三唱 奥 彬さん(55期)

歓談とスピーチで盛り上がり最高潮

懇親会の司会は金澤信男さんと土屋俊夫さんのお二人。来賓あいさつに続いて大谷永保さんの乾杯で懇親会が始まりました。テーブルは来賓が各テーブルに坐っていたが、自由席。会員スピーチは関口貞雄さん(48期)から、故郷の大先輩・山極勝三郎博士についての最近見つけた資料の紹介が

あったのち、昨年講演をされた清水正博さん(67期)が著書『先哲・石田梅岩の世界』を紹介しました。続いて関東同窓会で上田高校吹奏楽部が演奏したDVDが上映されるなか懇談が続ぎ、最後に奥彬さんの閉会の辞・万歳三唱でお開きになりました。

母校のスポーツ選手に注目を
82期 小宮山勝人先生
 前任の同窓会担当の先生から急遽引き継ぎました。同窓会担当は以前もしていたので、中味をよく分かっている人が引き継がないといけない、ということなので私が再度引き継ぎ(笑い)引き受けました。

学校の近況はお配りした資料のとおりです。私はサッカー部の顧問をしています。上田高校にはU17全日本代表に招集されている加藤克というすごい選手がいます。また、陸上競技では昨年インターハイで800m準決勝まで進んだ山崎菜月さんが、京都の同志社大学に進学して頑張っています。これらの選手を機会があれば応援しています。



乾杯 大谷永保さん

当面の課題は 財政基盤の確立
68期 金子元昭副理事長
 本部としましては財政基盤をいかに築くかが当面の課題です。毎年、母校の生徒7、8人に返済義務のない奨学金を出して支援するなど、母校支援の活動を行なっていますが、こうした事業のためにも財政基盤の確立は大切です。同窓生に約2万通「古城の門」を送っていますが、このうち会費

を払っていただくのは3千名強です。この割合をもっと高めて行きたいと思っています。ご協力をお願いいたします。
成長している生徒たち
71期 若林昌二校長
 上田も新しい文化施設「サントミュージゼのオーブ」などで活気づいております。上田高校も進学実績では国公立大学への進学者数が長野県トップに



若林校長挨拶

なるなど、生徒は頑張ってくれました。スポーツのほうも特にサッカー部が県内トップクラスの実績をあげています。

また、日本国際協力センター主催「アジア地域への青少年派遣事業」に上田高校が選ばれ、8月に生徒23名がフィリピンに派遣され、いろんな活動に参加しました。その発表を聞きましたが、大きく成長したと実感しました。このような活動を今後も続け、生徒にはコミュニケーションの力を培ってほしいと思っております。

「真田丸」はうれしいニュース
50期 大谷永保さん
 だんだん上の学年が少なくなってきました。50期は3名参加しているが、80歳になりました。関西同窓会も今年24回の総会なので、四半世紀になつたわけです。
 今年は大河ドラマ「真田丸」の放映決定がうれしいニュースでした。大阪の歴史の中でも真田の活躍は欠かすことができません。上田が大阪の歴史に名を残しているのは誇らしいことです。母校のますますの活躍を期待します。(乾杯のあいさつで)



参加者の記念写真

第24回総会講演会

中小企業が社会を変える 社会を担うのは、「企業市民」と生活者

京都中小企業家同友会 事務局長 荻原 靖 (74期)

参加会員が増え続ける 中小企業の自立組織

このような場でお話しさせていただく機会をいただき、たいへん嬉しく思います。

私が働く中小企業家同友会は、「中小企業家の自主的な努力と団結の力で中小企業の自覚を高め、中小企業を守り、日本経済の自主的で平和的な発展をめざす」として、1957年に日本中小企業家同友会として創立されました。財政も人材も自立的な組織という点が大きな特徴です。

その後、1969年に中小企業家同友会全国協議会が設立され、70年に京都が7番目に創立されました。全都道府県に4万3566人、京都で1587人が会員として参加し、全国協議会の会員数は過去最高を更新し続けています。

中小企業とは

中小企業とは、表1に掲げたように、業種によって異なりますが、製造業ですと、資本金3億円以下、従業員300人以下

業 種	中小企業者 (下記のいずれかを満たすこと)		うち小規模企業者
	資本金	常時雇用する従業員	常時雇用する従業員
①製造業・建設業・運輸業 その他の業種(②~④を除く)*	3億円以下	300人以下	20人以下
②卸売業	1億円以下	100人以下	5人以下
③サービス業*	5,000万円以下	100人以下	5人以下
④小売業	5,000万円以下	50人以下	5人以下

【表1】 中小企業者の定義

下の企業をいいます。小売業ですと、資本金5千万円以下、従業員50人以下です。

このうち、さらに小規模企業という区分けがあり、製造業ですと20人以下、それ以外の業種ですと5人以下です。くわしくは表をごらんください。

配布資料の冒頭に、「中小企業は、経済を牽引する力であり、社会の主役である」と記載しましたが、これは「中小企業憲章」の冒頭の一文で、中小企業に関する政策・施策について政府の基本方針を示したものです。

また、中小企業基本法では、「中小企業については、(中略)我が国の経済の基盤を形成しているものであり、(中略)独立した中小企業者の自主的な努力が助長されることを旨とし、その多様で活力ある成長発展が図られなければならない」と位置づけられています。

企業数で99%、従業員数は69%が中小企業

企業数で99・7%、約385万社、従業員総数は69・7%、約3216万人を占め、製造業の出荷額で49・1%、付加価値額で51・8%を、卸売業の販売額で64・6%、小売業では

67・6%を担い、統計から見ても欠かせない存在です。

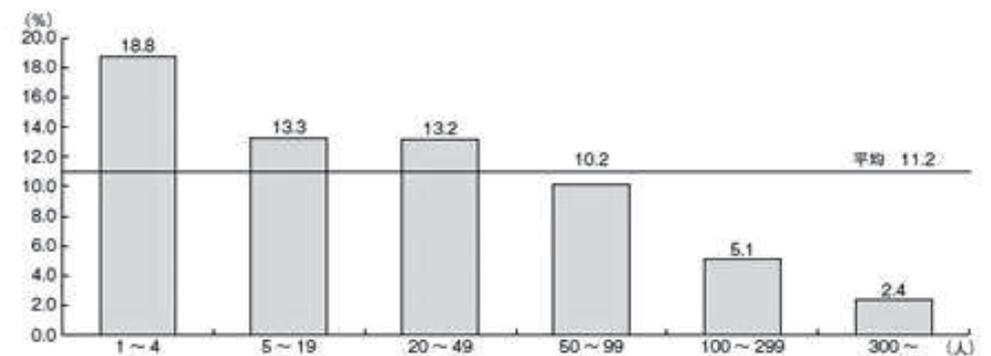
しかし、未だに古典的イメージが払拭できず、大学生と話をすると、映画「フーテンの寅さん」に出てくる「タコ社長」の会社のようなイメージや、逆に「高級車に乗って平日にゴルフを楽しんでいる」などというようなものもあります。

一方、中小企業へインターンシップに行くと、学生の評価は大きく変わります。「経営のビジョンや理念をしっかりと持っている」「社員が誇りを持って生き生きと働いている」「社会の中での自社の必要性が明確になっている」など、良い面を感じてもらえます。

中小企業では女性が
大企業より活躍している

グローバル経済の深化の中、国内では地域社会・経済の疲弊が問題となつていますが、意欲ある企業家は、地域に根ざして事業を継続・発展させることが、雇用を守り、これらの課題の改善に役立

第1-1-36図 従業者規模別の管理的職業従事者に占める女性の割合 中小企業白書2013年版より



資料：総務省「平成19年就業構造基本調査」
(注) ここでいう管理的職業従事者とは、事業経営方針の決定・経営方針に基づく執行計画の樹立・作業の監督・統制等、経営体の全般又は課(課相当を含む)以上の内部組織の経営・管理に従事する者をいう(官公庁、その他法人・団体に勤めている者は含まれていない)。

【表2】 従業者規模別の女性管理職の割合

違う角度からのデータでは、正社員あたりの子どもが、従業員301人以上の企業では0・42であるのに対して、20人以下の企業では0・92人というものもあります。

地域での資金循環の
貢献は大企業の20倍

地域経済における中小企業の役割をみて見ましよう。

ある地域に中小商店街と大型店の2つがあり、それぞれ月に1億円を売り上げたとき、商店街はこれを周辺事業者の決済などに使い、月当たり平均4回転させます。

これは実証研究で得られる数字です。売上の2分の1が圏外に流出したとすると、年間の資金循環は、「1億円×4回転×12ヶ月×2分の1＝24億円」です。

同じ地域で1億円の売上げの全国チェーンの大型店の場合はどうでしょう。売上げは即日金融機関から本部会計に集中され、地方税と店舗で働く地元のパートタイマーの賃金、約5%が還元される程度です。その他は商店街と同じとすると大型店の資金循環は、「1億円×5%×4回転×12ヶ月×2分の1＝1億2千万円」です。

実に20倍もの開きがあることがわかります。(森靖雄著『中小企業が日本経済を救う』2004年)

「魅力」を柱として、常に先進性を保つ製造業の企業があります。この経営者は、「魅力ある社員がいてこそ魅力ある製品・商品ができ、魅力ある会社づくりができる。その結果、お客様や社会

に貢献できる」として、1980年代にタイムレコーダーを廃止し、自律意識が高まり業績も上がりました。福利厚生施設棟を建設して地域に開放し、法定水準以上の社員待遇制度を次々導入する中で、「当社は、魅力」をつくらせている会社です」となるわけです。

また、「障害者、健常者などという線は引けない」として、積極的に障害者もつ人を採用し、一人ひとりの能力発揮の場として企業を位置づけている経営者もいます。人は「何か」はできるけれど、別の「何か」ができない。特別できることも、特別できないこともある。それは「個性」ではないかという考えです。人には生きていく意味「使命」があり、それぞれが人生の主役であるというのです。

福島第一原発の30km圏内で被災者の生活を守る食品スーパーがあります。被災直後から大半の店舗が、店長の判断で総菜や弁当を手付けして被災者や避難所に提供して回りました。企業の使命は「地域への食の提供」、経営理念は「お客様に親しまれ、喜ばれ、役に立つ企業であること」です。地域の食を担い続け、「エンジ色のジャンパー」と同

「魅力」を柱として、常に先進性を保つ製造業の企業があります。この経営者は、「魅力ある社員がいてこそ魅力ある製品・商品ができ、魅力ある会社づくりができる。その結果、お客様や社会

に貢献できる」として、1980年代にタイムレコーダーを廃止し、自律意識が高まり業績も上がりました。福利厚生施設棟を建設して地域に開放し、法定水準以上の社員待遇制度を次々導入する中で、「当社は、魅力」をつくらせている会社です」となるわけです。

また、「障害者、健常者などという線は引けない」として、積極的に障害者もつ人を採用し、一人ひとりの能力発揮の場として企業を位置づけている経営者もいます。人は「何か」はできるけれど、別の「何か」ができない。特別できることも、特別できないこともある。それは「個性」ではないかという考えです。人には生きていく意味「使命」があり、それぞれが人生の主役であるというのです。

社員の町を歩くと拍手が起ったと、感動的な逸話があります。

このように、人があつての中小企業、地域があつての中小企業です。近年、CSRやソーシャルビジネス、という社会的観点をもった経営のあり方が取り入れられています。昨年の関西同窓会総会で、清水正博さん(67期)の講演「石田梅岩の教えとは何か」でも学ばせていただきましたが、

企業がもつ本来の社会的役割が求められている時代です。社会を担うのは、「企業市民」や生活者であるとの自覚が土台にあつてこそ、企業家と企業の使命が生きてくるのだと思います。社会を変えるのは、そのような様々な「市民」の役割です。グローバル経済のもとで厳しい競争が続く中、人間らしい生き方ができる社会づくり

に、幅広い皆さんと共に取り組んでいくつもりであることをお伝えして、講演の結びとします。

「いつまで競争社会」を続けますか？

荻原さん、
会員大会でも講演



講演をする荻原さん

平成26年度「本部同窓会会員大会」が、10月4日(土)上田東急インで開催されました。開会に先立ち、荻原靖さんは午後2時30分

聴講して

中小企業家同友会(以下同友会)というのは、中小企業経営者が集まって学びあい、成長を目指す団体だそうです。講演では、同友会の発足の経緯から発展の歴史もお話しいただいた。戦後の日本経済の目覚ましい発展の裏で、中小企業がその基盤を支えていました。経済原理から言えば、経済の発展に伴って富の集中と格差の拡大が起こるため、弱い立場である中小企業はどんどん疲弊していくと思われがちですが、実際には中小企業が技術を高め成長していったことが高度成長の真の要因でした。そのように中小企業が成長できたのも同友会のような団体があつたからこそということ

地域に根差した中小企業の重要さを実感

83期 土屋俊夫

を改めて勉強いたしました。また、荻原さんは中小企業は経済のけん引役としてだけではなく、地域社会への貢献の面からも重要な存在であるということをお説かれました。特に東日本大震災の時に相馬地区のスーパーが、被災された方々に食糧品を提供すべく震災翌日から営業した話をビデオで紹介されましたが、地域に根差した中小企業だからこそ地域社会への責任感を持つて営業できたのだと思います。私の会社もスタッフ2名という非常に小さな会社ですが、講演を聞いて、ぜひとも京都という地域に貢献したいという思いを新たにいたしました。

「いつまで競争社会を続けますか？」中小企業と地域の方で社会を変えよう」という演題で、およそ1時間にわたって講演をされました。

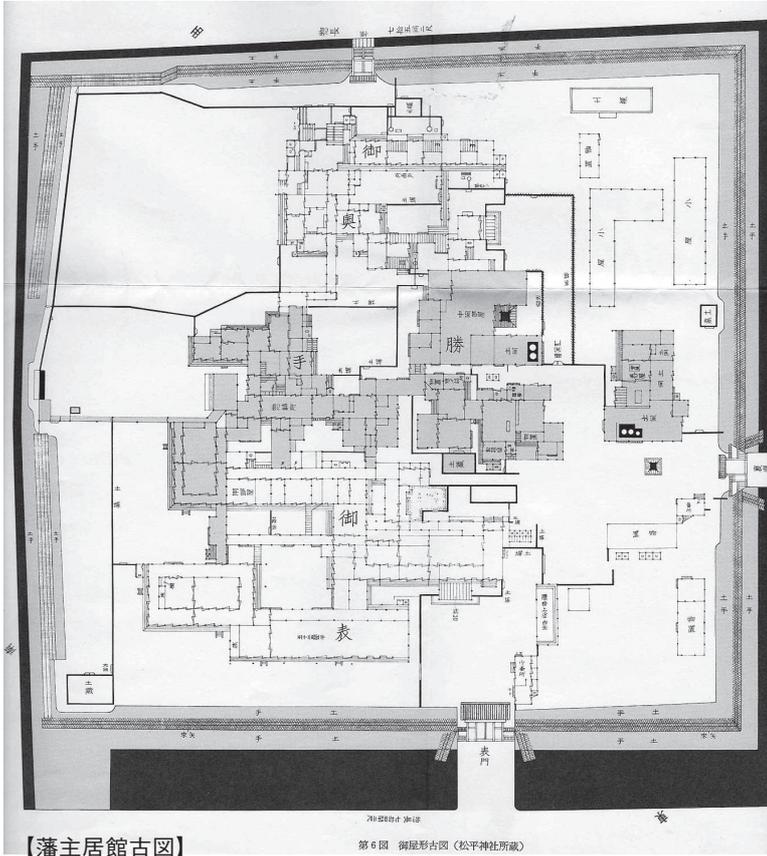
荻原さんは、日本の中小企業の現状や企業者が各地で活躍している事例を紹介したのち、人口減少などで「消滅可能性」896自治体「など一連の論文・レポート」などが出され、地方の危機感が強まっている今、上田市はもちろん全国の各分野でリーダーシップをとる位置にいる上田高校同窓生の皆さんに、地域の生活者や中小企業とともに「共創」「共生」の社会づくりをしてはどうか、と訴えました。

藩主居館の古図

学校長 若林昌二

現在のの上田高校の所在地は、かつての上田城の三の丸であり、真田信之以降、仙石・松平と代々続いた藩主の居館があった場所でした。上田高校の校長室には、かつての上田藩主居館時代の建物の配置を描いた「御屋形古圖」(松平神社所蔵)のコピーが掲げられています。松平氏時代の建物配置を表していると思われる古図には、表門(古城の門)や築地塀、お濠などが、現在の校舎敷地とほぼ一致する正方形に近い形で描かれています。藩主はこの御屋形で政務を行っていました。この図面によりますと、現在のロタリー、校長室、事務室に当たる辺りに公的な政治の場となる「御表」があり、その奥に納戸や賄い方などの「勝手」、更にその奥に藩主のプライベートな生活領域となる「御奥」がありました。

この古図には、井戸が二カ所描かれています。一つは現在の中庭にある古井戸で、現在は安全のため屋根が架けられています。もう一つは北門から二十メートル程入った



【藩主居館古図】

第6図 御屋形古図(松平神社所蔵)

定時制棟西の井戸の水面がします。日々の教育活動を貴重な歴史遺産の中で行うと、身が引き締まる思いが致します。歴史と伝統の「百難に試みむ」の志を継承し、新しい時代に求められる学びを実践して参りたいと考えております。

来年度に大河ドラマに「真田丸」が放映されることが決まっています。本校周辺を訪れる観光客の数も若干増えたような気が致します。

同窓生の皆様方には、これまでと変わらぬご支援を宜しくお願い申し上げます。

上田高校NOW

スーパーグローバルハイスクールアソシエイトの取り組みについて

教諭 福井克実

スーパーグローバルハイスクールアソシエイト校に指定されました

上田高等学校は、新しい学びの体系を模索するため昨年度文部科学省事業スーパーグローバルハイスクール(SGH)に公募し、最終審査まで進むことができました。残念ながら長野県からは長野高等学校のみが指定され、本校はスーパーグローバルハイスクールアソシエイト校として、本指定校を含む全国110校のSGHコミュニティとして活動をはじめました。

また長野県より「21世紀型教育モデル校」に指定され、地域の伝統的進学校である上田高校の「第3の道」を歩むべく、多彩なSGH関連行事を本年度(平成26年度)から実施しています。グローバルな課題研究設定や探究活動カリキュラムの開発により生徒の意欲能力を高めていく方針です。



アジア地域(フィリピン)への青少年派遣事業の参加者たち

フィリピンに2校が共同派遣 JENESYS2.0アジア地域への青少年派遣事業

JENESYS2.0とは将来の世代を担う青少年が派遣国において、主に同世代を対象に日本の先端技術・製品、ものづくり、自然、伝統文化、ポップカルチャー等のグローバルジャパンを含めた日本の強みや魅力等の日本ブランド、日本的な「価値」を発信し、派遣国の人々の日本への潜在的な関心を増進させ、日本を訪れる外国人旅行者数の増大を図り、日本経済再生への足がかりとする国の事業です。

本年度フィリピンに2校が派遣されることとなり、東日本から上田高校、西日本から徳島北高校計46名が共同派遣されました。校内説明会には76名が参加、定員23名に39名が応募し、書類審査、英語による面接審査を経て23名の派遣が決定されました。派遣団は現地高校、大学、公民館で日本の魅力を英語でプレゼンテーションすること、そして帰国後広く日本で報告するアクションプランが義務づけられていました。そのため100時間を越える事前学習、現地リハールを通じ、発信する

現地ではフィリピンの人々とのコミュニケーション力が増し、徐々に自信をつけ、たくましく成長した上田高校チームを実感することができました。またマニラ首都圏の富裕層、中間層ホームビジット、貧困層ホームビジット等を通じて発展途上国社会の格差を実感することができました。帰国後JICA上田セミナー、信濃毎日新聞記事、第2回松尾ゼミナール、フィリピン大学生招聘事業来校にてフィリピン研修報告を市民、県民、本校生、フィリピン大学生にプレゼンテーションを実施しました。現地研修報告を通じて今でも研修団は固い絆で結ばれています。このたびのフィリピン海外研修において単なる国際交流・異文化理解レベルに留まらず、日本の魅力を英語で発信する体験を通じて大いなる自信となったと思います。今回のリーダー松岡さんの活動報告書を以下に掲載しました。

私は今まで日本以外の世界を見たことがありませんでした。なので、フィリピン滞在中は生活スタイル、時間、貧富の差、考え方など日本と違う部分がたくさんあり見るものすべてが新鮮でした。その中で一番印象的だったのは、フィリピン人の性格です。

明るくフレンドリー

フィリピン人はみな明るくフレンドリーで積極的です。私は外国に行ったことが無かったので、マニラに着いたばかりの時はとても緊張していました。しかし、フィリピン人は外国人に対してとても寛容で、バスに乗っている私たちに沿道から笑顔で手を振ってくれたり、初めての環境で戸惑う私たちに親切にしてくれたりしたので、少しずつ緊張も解けていきました。だんだんと自分から英語で話しかけられるようになり、フィリピン人の友だちもできました。

もっと英語ができたなら

今回の研修で私は上田高等学校のリーダーとして生徒を代表して

すべてが新鮮でした ~フィリピン研修報告~ 2年 松岡 聖佳

英語であいさつをする機会がたくさんありました。私は、そこまで英語が話せるわけでもありませんが、がんばって作ったスピーチを、みんなが笑顔でうなずきながら聞いてくれたのでよかったです。しかし、こういうことを言いたいと思った時に、英語に直すことができませんでした。もともと英語が話せたらとても悔しかったです。現地の人たちが話していた英語は、落ち着いて考えてみると聞いたことのある単語も多く、私が学校で習った文法事項も使われていることがわかりました。コミュニケーションの手段として生かせるように、日々の英語学習をより一層がんばりたいと思いました。

浸透する日本文化

もう一つ印象に残っている驚いたことがあります。それは、フィリピン人は日本をよく知っていることです。フィリピンには、セブインレブロンやファミリマーとといった日本のコンビニなど企業も多く進出しています。また、日本のアニメはとても人気がありますし、寿司や刺身などの日本食もよく知られています。そして、訪問先では浴衣や折り紙など日本の伝統的なものまで見ることができ、意外と世界から見られているという実感しました。

フィリピンに行く前、私はフィリピンに対して治安が悪いなどのマイナスイメージばかり持っていました。しかし、フィリピンに行くとそれは必ずしも真実ではないことがわかりました。フィリピン人は外国人に対してとても優しく、親切にしてくれました。これは実際に行ってみないとわからないことだと思います。まずは、世界を知ることが大切だと思います。

大使館を訪れた際に聞いた言葉が心に残っています。「外国と日本との違いを体感してください。」フィリピン派遣に参加して実際に世界を見ることができたこと、この貴重な経験をさせてくれたことに感謝します。これを個人の経験だけでなく、周りの人にも世界の現状として伝えていきたいと思っています。



フィリピンの子どもたちとともに

一方、このような世界の現実を私たち日本人は知りませんで





大吉山展望台からの宇治川と平等院

(前頁からの続き)
 大八(守信)を初代とする
 仙台眞田は、幸村没後一世
 紀間眞田を名乗れず、所謂
 日陰ものとしての思いは如
 何ばかりであったろう。眞
 田家再興と言う目標があつ
 たからこそ、執念を持って
 生き抜き耐え抜いたと思わ
 れる。
 又、伊達政宗、片倉重綱
 と生前の幸村との絆が計り
 知れなく強く、その部下、
 家族にも徹底的に秘密を守
 らせた事は正宗、繁綱が如
 何に信頼されていたかを示
 すものである。
 今回の眞田塾で仙台眞田
 をより深く、広く知る事が
 出来て、大変有意義であつ
 た。眞田幸村の正しく、潔
 い生き方が今を生きている
 人々にも参考になる。
 2016年の大河ドラマ
 「眞田丸」の放映が待ち遠
 しい。



宇治神社

平成26年11月15日(土)、
 小春日和の暖かな日差しの中、秋の文化交流会が開催された。
 朝9時半に京阪宇治駅に
 集合した8名は、まず宇治
 観光ボランティアガイドク
 ラブの岩佐早智子さんから
 宇治茶についての興味深い
 お話を頂き、源氏物語ミ
 ュージアムに向かう。
 当初、源氏物語ミュージ
 アムは休憩だけの予定だっ
 たが、当日は無料開放日だ
 ったため、入館し宇治の歴
 史と源氏物語について学習
 した。

宇治上神社と 大吉山展望台の眺め

次に向かったのは宇治上
 神社。残念ながら国宝の本
 殿は、解体修理工事のため
 見学はできなかったが、国
 宝の拝殿は国内に現存する

平成26年度秋の文化交流会

平等院鳳凰堂拝観と晩秋の宇治川散策

73期 武舎一夫

対鳳庵でお抹茶をいただく



どこから眺めても14個しか確認できない。他の石の背後に隠れ、人の目では決して見ることのできない石が必ずあるからだ。ここで人間とはかように不完全な存在であるという禅の教えを学んだ。

お抹茶を頂いて昼食

午前最後の訪問は、宇治市営茶室「対鳳庵」。ここで、お茶のお点前を拝見しながらお抹茶を頂く。紅葉を象った季節のお菓子が愛らしい。
 昼食は、宇治の川床料亭として有名な「鮎宗」で、「鰻いむし」と茶そば付き季節のかご盛りセットをいただく。

石沢会長のご挨拶のあと、皆で乾杯して一時間ほど雑談を楽しんだ。窓越しに眺める紅葉の宇治川が美しい。
 鰻いむしは、鮎宗の名物料理。油の乗った鰻は美味だが、ニホンウナギが絶滅の危機で価格が高騰しており、いつまで鰻が食べられるのか心配になる。

当日は気持ちのよい晴天だったので、深まりゆく秋の紅葉を楽しみながら、大吉山展望台に登った。ここから宇治市街及び、遠く愛宕山・天王山・男山を一望できる。また、眼下に眺める宇治川と平等院鳳凰堂の景観は素晴らしい。

古刹興聖寺の禅庭

展望台を下り、10分ほど歩いて紅葉で有名な道元創健の曹洞宗の古刹興聖寺に到着した。岩佐さんは興聖寺の庭の前で、禅寺の庭について説明を始め、庭にいくつ石が置かれていたのか皆に尋ねた。

一同庭を眺め、石がいくつあるか数え始めた。庭には実際15個の石が置かれているが



川床料亭「鮎宗」で乾杯

ついに平等院鳳凰堂へ

昼食後、平等院鳳凰堂を拝する。鳳凰堂は、その外観を可能な限り創建時に戻すべく、平成24年秋から大規模な修理復元工事が行われ、今春その平安創建当初の姿が蘇った。観光のピークシーズンを迎え鳳凰堂内部見学のチケット購入がうまくいくか心配だったが、岩佐さんにご足労をお掛けして当日早朝にチケットを購入していただいたので予定通り14時10分に入場することができた。ボランティアガイドさんの気配りに感謝。



平等院鳳凰堂を背景に

堂内に入ると仏師定朝の作品として唯一確認できる阿弥陀如来像の大きさにまず驚く。その穏やかで、天上的な優しい表情が人の心を打つ。堂内の壁面に懸け並べられた雲中供養菩薩像は阿弥陀如来像の周りを飛び交い、阿弥陀如来と一体になって、目前に平安貴族の夢見た極楽浄土をこの地上にもたらししている。

鳳凰堂内部の見学の後、鳳凰堂の庭園を散策した。西日に照らされた鳳凰堂が美しい。鳳凰堂の小窓からは、阿弥陀如来像の神々しいお顔が覗いていた。

山極勝三郎先生と上田郷友会

48期 関口貞雄

1、山極先生の業績

平成26年前半の話題をさらったのは理研のスタッフ細胞論文(小保方晴子氏)の真偽についてであった。このニュースで私は約50年前の新聞記事を思い出した。



山極勝三郎先生

昭和41年(1966年)10月第9回世界ガン学会に出席するために来日したスウェーデンのフォルケ・ヘンシェン博士(元ノーベル賞選考委員、王立カロリンスカ研究所名誉教授)は学会で、「世界のガン研究史上で山極博士の研究は偉大な業績でノーベル医学賞に値するものに差し上げられなかったことを大変申し訳なく思っています。」と述べ、更に、世界対ガン連合会会長アレキサンダー・ハドウ博士(イギリス)は「世界のガン研究は山極博士によって開発されました。」と讃えた。

山極先生は東大医学部教授であった大正4年(1915年)、兔の耳にコールドルを塗附して人工ガンの発生を発見し研究論文を発表した。大正10年(1921年)ノーベル生理学、医学賞候補に初めて推薦され、翌年から何回も候補に挙がったが、大正15年(1926年)が最も有力で、最後までヨハネス・フィベル博士(デンマーク)と競い、フィベルの論文発表が少し早かったことから、フィベルが受賞する結果となった。ところが26年後の昭和27年(1952年)、フィベルの発ガン実験に誤りがあることが判明した。来日したヘンシェン博士がこれを指して、「山極博士の研究こそが正しく、ノーベル賞を受賞すべきであった。」と述べたのである。



山極先生顕彰碑(昭和15年建立)



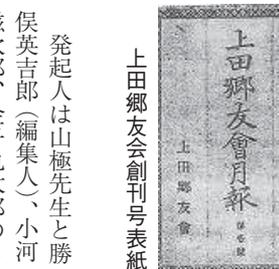
山極先生胸像碑(昭和43年建立)

も今日のように情報が発達し、論文や実験の誤りが短期間で指摘されたならば、山極先生の日本初のノーベル賞が実現した筈で、実に残念なことであった。

山極先生は東大医学部教授であった大正4年(1915年)、兔の耳にコールドルを塗附して人工ガンの発生を発見し研究論文を発表した。大正10年(1921年)ノーベル生理学、医学賞候補に初めて推薦され、翌年から何回も候補に挙がったが、大正15年(1926年)が最も有力で、最後までヨハネス・フィベル博士(デンマーク)と競い、フィベルの論文発表が少し早かったことから、フィベルが受賞する結果となった。ところが26年後の昭和27年(1952年)、フィベルの発ガン実験に誤りがあることが判明した。来日したヘンシェン博士がこれを指して、「山極博士の研究こそが正しく、ノーベル賞を受賞すべきであった。」と述べたのである。

山極先生の旧姓は山本勝三郎で、鎌原に住む上田藩士山本家の3男として文久3年(1863年)生まれ。上田第一小学校(旧藩校)、上田変則中学校(上田高校の前身)を優秀な成績で卒業した。明治維新となり、下級武士の山本家が困窮し、勝三郎が上級の教育を受けられないことを心配した中学校の恩師正木直太郎(正木不如丘の父)は、同じ教子の勝侯英吉郎の父勝侯康平に相談した。勝侯家は上田藩御典医で、維新後は馬場町で開業医となっていた。勝侯康平は長男の英吉郎を東京で新時代の医学を勉強させるつもりであった。同じ馬場町に住み御典医の同輩であった山極吉哉は、維新後に住居を売って新天地を求めて東京四谷荒木町へ移り、医院を開いていたが、娘のみで跡継ぎの男子がなかった。そこで勝侯康平は正木に山極吉哉を紹介し、山本勝三郎を山極家へ養子入りさせて勉学の機会を与

今年偶然の機会から、山極先生が東大医学部の学生であった時に提唱して創立された「上田郷友会」会報の創刊号(明治18年(1885年)2月発行)に掲載された「緒言」(創立趣意書)を入手した。その大意を現代文にしてご紹介する。



上田郷友会創刊号表紙

ねばならない。国は一部より、一郡は一村より成り立っている。先ず郡村より始め、お互いが切磋琢磨し、競い合えばこの目的が達成される。一昨年我々が立ち上げた「上田学友親睦会」は正にその為であり、松代の上に出て松本の右に座ることであり、薩摩、長州、土佐、肥前との競争に打ち勝つことを目標とした。ここで新たに同郷、同志諸君に広く呼びかけ、「上田郷友会」と名称を改めて再出発することとなった。定期的な会合を開いて記事にまとめ、更に論説、雑録、雑報を記載する月報を発行することに決定した。」

2、山極先生の顕彰碑と胸像碑

山極先生の顕彰碑は昭和15年に建立された。上部の揮毫は長興又郎博士(長興専斎の三男、東大12代総長、ガン研究の権威者で山極先生の後輩、男)

「今や社会は益々複雑を極め、文学、技芸、農、工、商に皆が励み、人智は日進月歩し停止することは無い。お互いに競争し合えば得ることも多い。目を凝らして世界の国々を見つめよう。英、仏、独、露は各々が国策を練り、艦船、兵力を充実させ、訓練を積んで虎視眈眈と獲物を狙っている。危険なことではないか！我が国は東洋の一孤島であるが、国の独立を永く保持し、日の丸を世界に輝かせねばならない。

今日日本は中国やインドのような旧大國ではない。その理想を実現するには手段が必要で、文学、技芸、農、工、商の各分野で進歩を図り、欧米諸國を凌駕せねばならない。それには先ず実現可能な道を選び、不撓不屈の精神でこれに当たら

発起人は山極先生と勝侯英吉郎(編集人)、小河滋次郎、金子軌太郎の4人で、第1回の会合には20~25人が集まったが、会報の山極先生の緒言に刺激されて会員が急増し、その年の秋に170人を超えたと記録されている。小河滋次郎は東大法学部監獄学を専攻して法学博

3、上田郷友会の設立と会報の緒言

「意気昂然と 二歩三歩」 曲水(先生の俳号)

「今日や社会は益々複雑を極め、文学、技芸、農、工、商に皆が励み、人智は日進月歩し停止することは無い。お互いに競争し合えば得ることも多い。目を凝らして世界の国々を見つめよう。英、仏、独、露は各々が国策を練り、艦船、兵力を充実させ、訓練を積んで虎視眈眈と獲物を狙っている。危険なことではないか！我が国は東洋の一孤島であるが、国の独立を永く保持し、日の丸を世界に輝かせねばならない。

今日日本は中国やインドのような旧大國ではない。その理想を実現するには手段が必要で、文学、技芸、農、工、商の各分野で進歩を図り、欧米諸國を凌駕せねばならない。それには先ず実現可能な道を選び、不撓不屈の精神でこれに当たら

今年偶然の機会から、山極先生が東大医学部の学生であった時に提唱して創立された「上田郷友会」会報の創刊号(明治18年(1885年)2月発行)に掲載された「緒言」(創立趣意書)を入手した。その大意を現代文にしてご紹介する。

4、山極先生の生い立ちと親友勝侯英吉郎

山極先生の旧姓は山本勝三郎で、鎌原に住む上田藩士山本家の3男として文久3年(1863年)生まれ。上田第一小学校(旧藩校)、上田変則中学校(上田高校の前身)を優秀な成績で卒業した。明治維新となり、下級武士の山本家が困窮し、勝三郎が上級の教育を受けられないことを心配した中学校の恩師正木直太郎(正木不如丘の父)は、同じ教子の勝侯英吉郎の父勝侯康平に相談した。勝侯家は上田藩御典医で、維新後は馬場町で開業医となっていた。勝侯康平は長男の英吉郎を東京で新時代の医学を勉強させるつもりであった。同じ馬場町に住み御典医の同輩であった山極吉哉は、維新後に住居を売って新天地を求めて東京四谷荒木町へ移り、医院を開いていたが、娘のみで跡継ぎの男子がなかった。そこで勝侯康平は正木に山極吉哉を紹介し、山本勝三郎を山極家へ養子入りさせて勉学の機会を与

今年偶然の機会から、山極先生が東大医学部の学生であった時に提唱して創立された「上田郷友会」会報の創刊号(明治18年(1885年)2月発行)に掲載された「緒言」(創立趣意書)を入手した。その大意を現代文にしてご紹介する。

「今日や社会は益々複雑を極め、文学、技芸、農、工、商に皆が励み、人智は日進月歩し停止することは無い。お互いに競争し合えば得ることも多い。目を凝らして世界の国々を見つめよう。英、仏、独、露は各々が国策を練り、艦船、兵力を充実させ、訓練を積んで虎視眈眈と獲物を狙っている。危険なことではないか！我が国は東洋の一孤島であるが、国の独立を永く保持し、日の丸を世界に輝かせねばならない。

今日日本は中国やインドのような旧大國ではない。その理想を実現するには手段が必要で、文学、技芸、農、工、商の各分野で進歩を図り、欧米諸國を凌駕せねばならない。それには先ず実現可能な道を選び、不撓不屈の精神でこれに当たら

発起人は山極先生と勝侯英吉郎(編集人)、小河滋次郎、金子軌太郎の4人で、第1回の会合には20~25人が集まったが、会報の山極先生の緒言に刺激されて会員が急増し、その年の秋に170人を超えたと記録されている。小河滋次郎は東大法学部監獄学を専攻して法学博

ねばならない。国は一部より、一郡は一村より成り立っている。先ず郡村より始め、お互いが切磋琢磨し、競い合えばこの目的が達成される。一昨年我々が立ち上げた「上田学友親睦会」は正にその為であり、松代の上に出て松本の右に座ることであり、薩摩、長州、土佐、肥前との競争に打ち勝つことを目標とした。ここで新たに同郷、同志諸君に広く呼びかけ、「上田郷友会」と名称を改めて再出発することとなった。定期的な会合を開いて記事にまとめ、更に論説、雑録、雑報を記載する月報を発行することに決定した。」

えることとなった。
明治12年(1879年)山極となった勝三郎は同級生の勝俣英吉郎と共に上京し、1年間はドイツ語を勉強し、明治13年(1880年)東京大学予備門に入学し、医学者としての道を歩み始めた。明治16年(1883年)に卒業し、医学部本科へ進学した。この年に松山の正岡子規と秋山真之が入れ替わって予備門に入学し、夏目漱石と出会った。上田藩と同じ徳川親藩であった松山藩は明治維新で遅れをとり、それを挽回するために旧藩主が財政支援をして若者の教育に熱心に取り組んでいた。また、熊本藩の若者は同志社英学塾で必死に勉学に努めた時代であった。



勝俣英吉郎第2代上田市長

山極先生は医学生身の

ながらも社会の現状を直視し、薩摩、長州、土佐肥前の支配する国の形に強い疑問を抱き、親友の勝俣等と共に同郷の人々に声をかけ、最初に上田学友親睦会を立ち上げたのが明治16年(1883年)のことで、伊藤博文が憲法調査の外遊から帰国し、

足し、鹿鳴館が完成して不平等条約廃止を目的とした鹿鳴館外交が始まった年である。

政府の要職は勿論のこと、地方行政も薩長で占められ、長野県令(後に知事)は長州の木梨清一郎、兵庫知事は内海忠勝で、後に第2代長野県知事として赴任した。

山極先生は緒言に宣言した通りに自分の進む道を見出し、周囲の期待に応えて東大医学部を首席で卒業して母校へ残り、ドイツ留学を経て母校医学部の教授となり、研究者、教育者の道をまっしぐらに突き進んで偉業を成し遂げたのである。

親友勝俣英吉郎は東大医学部を卒業後、郷里上田へ帰って勝俣医院を継ぎ、地方医療に貢献しながら地方行政にも関与し、第2代上田市長に就任し、上田市営陸上競技場、野球場、公園を整備し、市制の基礎を固めた。功績を讃える記念碑が山極先生と共に上田城跡公園に建てられている。



勝俣英吉郎記念像

(上田城跡公園)

山際勝三郎先生の業績紹介に感銘をうける

同窓会総会に参加して

83期 土屋俊夫

9月6日に行われた、上田高校関西同窓会総会・懇親会に参加しました。関西同窓会は平成22年に初めて参加して以来5回連続での参加となります。私は第83期卒の48歳。世間的には中堅ですが、関西同窓会の中では最若手の一人です。関西同窓会の総会は参加者が1学級程度の人数なの

で、すべての参加者と親しく交わることができ、普段なかなかない幅広い年代の方との交流が一番の魅力です。欲を言えば、若い方の年代への幅広さも欲しいところですが、

現役吹奏楽団の演奏DVD

懇親会で私は、昨年に引き

続き司会を務めさせていたいただきました。今年は関東同窓会からDVDをお持ちいただき関東の総会の際の現役生の吹奏楽団の演奏と、往年の応援団団長による演武を視聴しました。実は私自身も高校時代は吹奏楽団所属だったので、高校時代クラブ活動に熱中していたころの思い出が鮮明に

梅岩の名言を一話ごとに紹介

石田梅岩(1685~1744)

は江戸中期の思想家で、石門心学の祖として知られる。「実の商人は、先(相手)も立ち我も立つことを思うなり」と本業の中で社会的責任を果たしていくことを説いた言葉などが有名だ。この本は梅岩の名言を、本人の著作である『都鄙問答』や、門人たちが編纂した『石田先生事蹟』などからエッセンスを抜き出し、原文と現代語訳、それに清水さんの解説を付けたもの。

清水正博さんはスーパーのイズミヤで働いていた30歳代半ば、石田梅岩の著作を読んでその内容に惹かれ、生涯をかけてその教えを広めたいと志したそうである。退職後の現在、梅岩の思想を広める法

『先哲・石田梅岩の世界』

— 神天の祈りと日常実践 —

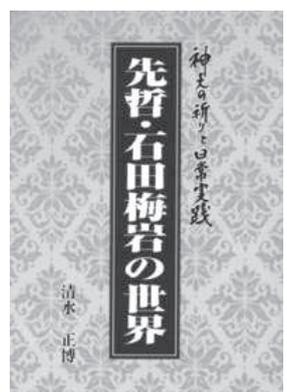
67期 清水正博著

人で活動しながら、若いころの思いを実践されている。

本書は清水さんの梅岩研究の精華を簡潔にまとめたもので、見開き2頁に一話が収録されており、大変見やすく読みやすい。125頁を一気に読んでもいいが、できれば毎日少しずつ一話一話を味わって読むのがいいと思う。清水さんの手で梅岩の真髓が一冊に凝縮された。

(新風書房 2014年8月刊 500円+税)

会員の出版物



蘇り、非常に懐かしい思いに胸が熱くなりました。

山際勝三郎先生の業績

例年の懇親会では多くの時間を割いている学年ごとの近況報告を、今回はかなり減らしてこのDVDの上映を行いました。もう一つ特別に時間を割いたのは48期、参加者最年長の関口様による、上田出身の医学者山際勝三郎先生の業績紹介でした。

近年は日本人も多くのノーベル賞を受賞していますが、湯川秀樹が日本人最初のノーベル賞を受賞する20年以上も前に人工癌の研究で山際先生はノーベル賞にノミネートされていました。しかもライバルで実際にノーベル賞を受賞したフイビゲルの研究は間違っていたことが後に証明されており、山際先生こそがノーベル賞に値していたと、今では広く認められているそうです。山際先生を誇りに感じる関口様の熱い語り口が非常に印象的で感銘をうけました。

再来年のNHK大河ドラマは「真田丸」に決定し、舞台となる大阪はこれから徐々に盛り上がりが出ていくと思われま。信州から関西に出てきた我々もドラマを応援したいと思つとともに、いにしえの英雄に負けない活躍を見せたいという思いを持った同窓会の集まりでした。



母校の社会講座

平成26年度社会講座(1学年対象)が、9月18日(木)・上田高校にて行われました。今年の講座は全14講座で、関西および関西推薦として、◇国際学/竹内俊隆さん(68期) ◇理学/松原隆彦さん(83期)が参加されました。講師の竹内俊隆さんに参加した感想をお寄せいただきましたので紹介いたします。

能力は多種多彩を強調、学校秀才は能力の一つにすぎない | 平成26年度上田高校社会人講師の感想 |

68期 竹内俊隆 (大阪大学)

平成26年9月18日に母校の一年生を対象とした社会人講師を、数年ぶりに務めた。講師は全員で14名であった。国際問題などに興味を持つか、将来国境を越えた仕事に就きたい生徒約20人が対象になっていた。話は、高校側の要望に沿った形で、パワポ・スライドを用いて行った。

最初に、私は大学教員であるので、はじめに勉強してきたとの印象があると思うが、高校時代は部活に集中し、成績は超低空飛行の悪がきだったことを話した。そして、それでもどこかで努力すれば挽回できることを強調した。努力しても結果が伴わない可能性はあるが、努力をしなければ基本的には「空気を読まな

かく回ってきたチャンス又は運(単に運が良かったと言われるが)を掴めないのも事実であろう。掴むのも能力のうちである。また、社会で活かせる能力は多種多彩で、学校秀才は能力の一つではあっても、幾多ある能力の一つにしか過ぎないことも強調した。

最後に、異論があると思うが、日本では結果の平等主義を求め、観念が強すぎるため、出る杭は打ち、金太郎あめを量産している。みんな同じでは面白くもないし、かつての大量生産時代には適していたが、現在そして将来的には新しい発想・アイデアがますます重要な社会になっている。まだ若いだから基本的には「空気を読まな

い」、他人に迎合しない「個」を持った人生活観を持つてもらいたいと述べた。

印象としては、高校一年生だから仕方ないと思うが、おとなしすぎる。それでも、二つの質問が出たのは上出来と思う。ただし、ほそぼそと言った男子がいたので、自信がなくてもはつきりと堂々と言うように助言したつもりであるが、きつい言い方になってしまったようで、涙を流したのには驚き、戸惑った。それだけ、純粹なのだろう。反省。



上田市天神の日本たばこ産業上田工場の跡地に昨年の10月2日上田市交流・文化施設「サントミュージーゼ」がオープンした。4万5千平方メートルの敷地に地上5階地下1階建てで132億円をかけて建設された。

ホールと美術館が一緒に

施設は、大小二つのホールがある市交流文化芸術センターと市立美術館からなっている。

最大1650人が収容できる市交流文化芸術センターの大ホールは3層のバルコニー形式でクラシックコンサートから演劇・オペラ・伝統芸能等幅広く使えるように工夫されている。一方の市立美術館は地元ゆかりの画家・版画家の山本鼎、彫刻家の石井鶴三、写真家のハリイ・K・シゲタの常設展示室と企画展示室がある。

「サントミュージーゼ」は、ひと・まち・文化の育成をコンセプトにしている。上記施設他に大スタジアム、市民アトリエギャラリー、子どもアトリエも

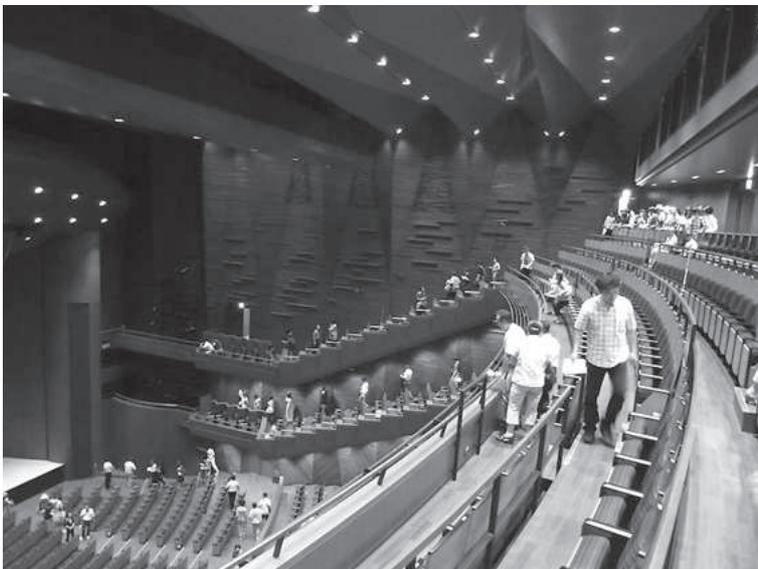
蚕都・上田市に新しい文化・芸術の拠点「サントミュージーゼ」が誕生

67期 池村修三 (古城の門編集委員長)

併設している。小ホール、大スタジアムでは地域のコーラス発表、踊りの発表、学生の演劇発表、小劇団の公演など多様な利用を想定してつくられている。また、子どもアトリエでは、子供たちがのびのび創作できる場所として開放的な空間が広がり、感性豊かな子ども達の育成に力を入れていくことになっている。同施設は、様々な文化・芸術の鑑賞の場であるとともに地域住民の参加・体験型施設としても配慮している。

宝塚歌劇の講演も

「サントミュージーゼ」のオープンに伴い、宝塚歌劇星組公演『風と共に去りぬ』(11月)、新国立劇場バレエ団公演『シンデレラ』(12月)など、これまで上田では見ることのできなかった様々な芸術に触れることが可能になった。この施設とともに私たちも今後心豊かな人生が歩めればと願っている。



サントミュージーゼの大ホール

信濃路 点描